

生まれ育った村を守りたい



山里 富久 さん 小原美枝子 さん
Tomihisa Yamasato Mieko Ohara

「楽」しく「居」る

平成15年5月、当時の福部村で「ふくべ楽居大学」が、開学しました。福部に愛着を持った人たちが集まり、都会ではできない田舎暮らしや自然体験をメニュー化し、心を込めて提供することで、地域の活性化を図っていかうと誕生したものです。大学を運営するメンバーは、現在9人。福部町内でも一番山奥の左近集落をさらに入った清内谷集落と鳥取砂丘のすぐそばの湯山集落で、メンバー自身

が「達人」となり、里山探検や山菜採り、ちまきやこんにやくづくり、ラッキョウ掘りや梨狩りなど、季節ごとにいろいろな体験メニューを提供しています。学長は、清内谷集落に住む山里富久さん。「楽居は、福部特産のラッキョウと、『楽』しく『居』るといふ掛け言葉ですな。役場が考えてくれました。うまく付けたもんですね」と笑います。

今回は、この清内谷集落で活動する山里さんと副学長の一人の小原美枝子さんにお

ふくべ楽居大学 (清内谷集落)

話を伺いました。

いきなりモニターツアー

昭和3年頃には11軒あった家が、今では4軒、5人となった清内谷集落。山里さんは「だんだん住む人が少なくなるけど、この村を守りたい。清内谷には、棚田、山菜をはじめとする山の幸、虫が飛び交う清流、昔ながらの暮らしがある。これらを活用して村おこしができないかと考えました」と当時を振り返ります。ちょうど良いタイミングで、福部村と鳥取県が共同で



こんにやくづくりも人気メニューの一つ。その場で作ってすぐに刺身で食べます。



田舎暮らし体験事業の支援を始めようとしていて、山里さんは早速メンバーを集めて、「ふくべ楽居大学」を立ち上げたのです。

最初の年からいきなり、モニターツアーの受け入れを行いました。京都 橋女子大(現在の京都橋大学)の学生42人に、「ふくべ楽居大学」のさまざまな体験をしてもらい、自分たちが考案したメニューの点検を行いました。小原さんは「最初のころは、下ごしらえから何から何まで私たち

《2月の番組ガイド》

..... 鳥取市行政番組

『こんにちは鳥取市です』【放送】毎週火・金・土

週2回の番組で、鳥取市の施策や事業の取り組み状況、各種行事、お知らせを紹介します。



次世代育成優良企業表彰(昨年11月)

火曜日は、週末に行われたイベントなどを中心に放送します。

【特集】

- ▷ ごみ袋有料化その後
- ▷ 次世代育成優良企業表彰
- ▷ 鳥取市自治基本条例
- ▷ 2009 鳥取・因幡の祭典

静止画文字情報『鳥取市からのお知らせ』【放送】毎週金・土



イベント・募集・相談などの各種お知らせを、文字画面と音声でご案内します。

いなばびよんびよんネット
自主制作番組

農業番組『いなばアグリタイム』【放送】毎週水・木

各地で始まった集落座談会や、恒例のJA。女性会鳥取支部の演芸大会の様態などをお送りします。

地域情報番組『とっとりウオーキング』【放送】毎週日・月

節分やバレンタインデーの話題、そして今春小学校に入学する子どもたちの、体験入学のようすなどを紹介します。

手話番組『手話でコミュニケーション』【放送】毎週日・月

ニュースや話題、行事、お知らせを手話や字幕で紹介します。

お知らせ

いなばびよんびよんネットの番組が地上デジタルテレビでご覧になれます。設定や操作方法など、詳しくは下記にお問い合わせください。

情報をお寄せください!

いなばびよんびよんネット ☎ (0857) 22-6111

*放送予定は予告なく変更することがあります。

番組はホームページでも紹介しています。

<http://www.inabapyonpyon.net>

2ch



ちまきづくり体験のようす

人気の秘密

16年からは、前2年目の平成

がやってしまっ
て……。とにかく、
もてなすのに精
一杯でした。ふ
れあう余裕がな
かったですね。
その後のアンケ
ートで、初めて、
都会の大学生が
この時どう感じ
ていたかを知り
ました」と苦笑
い。

年のモニターツアーの経験を
生かし、より本格的な「田舎
体験」の取り組みを始めまし
た。「ごはんも羽釜で炊くん
です。もちろん薪で火を焚い
てやってもあります。こげよ
うとんだらうと、それがい
いんです。ちまき作りも山
で笹を採るところから始め
ます。山歩きが喜ばれます
ね。メンバーみんなで作った
五右衛門風呂も人気です」と
山里さんは胸を張ります。
小原さんも「笹採りの途中
で川に生えているミズブキを
採って帰ると、みんな『そ
んな草をどうやって食べる

村の自然や文化を
守りたい

の?』という顔をしていまし
たが、食べてもらうと納得の
顔でした。夜になると、みん
ながずうつと星空を見てるん
ですよ。星がきれいで感激し
てみたいですね」と、素
の田舎体験の人気の秘密を話
します。
小原さんは「始める前は戸
惑っていたんですが、こうし
て都会の人を受け入れている
うちに、初対面の人でもすぐ
に打ち解けられるようになり
ました。出会いが多いと感激

も多いですね。この活動は、
自分自身の楽しみにもなって
います」と目を輝かせます。
山里さんも「都会の人が来
て、さまざまな田舎体験をす
る。すると、それに関わる地
元の人間も自然に清内谷へ集
まってくる。生まれ育った村
の自然や文化を守りたいんで
す」と意気込みを語ります。
「田舎」暮らしの楽しさを
都会の人たちに伝える「ふく
べ楽居大学」の取り組みは、
高齢化・人口減少が続く農山
村にとって、「希望の星」と
なるかもしれません。